

中学 1 年生、高校 3 年生も忘れずに MR (麻疹・風しん混合) ワクチンを

2009.03.06

昨年、一昨年と大学での麻疹の流行で大学の授業や入学式などに影響が出たというニュースを覚えていますか？昭和 53 年から麻疹のワクチンが定期接種として始まり、平成 18 年から MR ワクチンでの二回接種が始まり、平成 20 年からは中学 1 年生と高校 3 年生を対象にした MR ワクチンの追加接種 (5 年間限定です) が始まりました。

麻疹の流行があると、それに伴ってまだワクチンができない乳児やワクチンをしていなかった幼児では、麻疹の感染が直接的あるいは間接的な原因となって死に至ることがあり、日本のすべての地域から麻疹をなくすことを目標に厚生労働省、小児科医が一丸となって戦っているところです。幸に、平成 13 年には 3 万 3 千の麻疹の報告がありましたが、平成 18 年は 516 件、平成 19 年 3150 件、平成 20 年は統計方法が変わりましたので比較はできませんが、11005 件と全国的には明らかに減っているとは言えない状況が続いています。

中学生、高校生への麻疹の追加接種は、麻疹の流行そのものを日本からなくそうという趣旨で始まっています。日本から麻疹の流行をなくすためには、95%以上の人に MR ワクチンを打つことが目標です。残念ながら平成 20 年 9 月までの統計では中学生の接種率は函館市 88.5%、北斗市 71.7%、七飯町 51.5%でした。高校 3 年生は函館市 71.4%、北斗市 71.5%、七飯町 55.1%で、95%には遠く及びません。

また、平成 21 年の大学の入試情報をみていますと、大学の 80%で麻疹ワクチンの二回接種か麻疹の免疫の状態 (抗体価といいます) を測定しておくことを入学の条件に入れているようですので、この時期の無料接種を受けていなければ、自費接種あるいは抗体価の測定に 1 万円程度のお金がかかることになります。

中学生、高校生に対する二回目の MR ワクチンは特別な事情がない限り、過去に麻疹や風しんにかかったことがあるか、ワクチンをしているかどうかに関わらず多くの人にワクチンをするのが目標になっておりますので、わからないことがありましたら、各市町村かかかりつけの先生にお尋ねの上、できるだけ早くに接種を完了するようにしてください。